

特別活動研究会 会報6号

KAWASAKI 特活

学級活動 (1) (2) (3) 児童会活動 クラブ活動 学校行事

川崎市立小学校 特別活動研究会

検索



令和5年度 小教研授業研究会 特別活動
令和5年7月12日(水) 川崎市立向丘小学校



●向ヶ丘小学校小学校の職員の皆様、授業の準備や会場準備等、大変お世話になりました
4年 組
学級活動 (3) 「夏休みで成長しよう」

ねらい

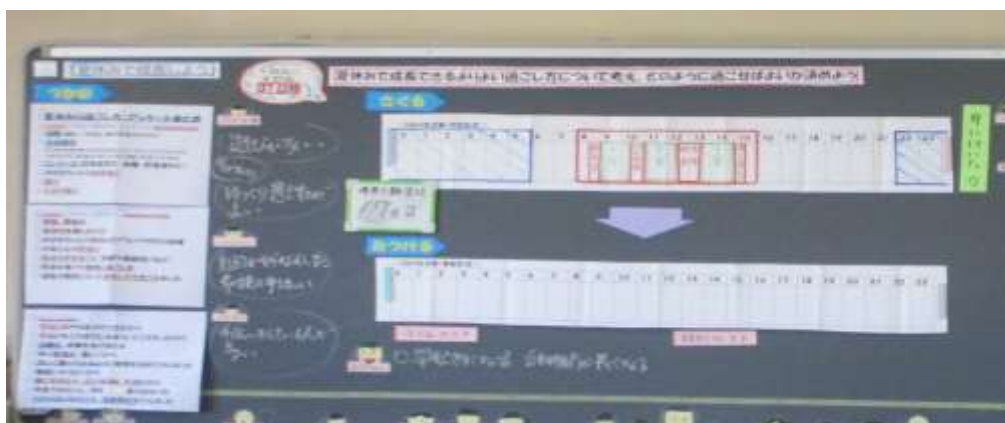
めあてや見通しをもって夏休みを過ごすことの大切さに気付き、目標や夢に近づくための過ごし方について話し合い、自分のめあてをもって実践できるようにする。

協議会より

指導講評 特別活動研究会 川崎市立上丸子小学校 教頭 横山 里恵

～話題及び指導講評～

- 題材の設定について、年度末の反省で夏休みをどのように過ごすかが話題に上がったので「夏休みで成長しよう」をテーマにした。夏休みに行いたい学習や体験などの計画を立てることで、夏休みを有意義に過ごし、成長を実感できるようにしたいと考えた。学校から出された課題に取り組むだけでなく、「夏休みで成長しよう」ということを学校からアプローチすることに意義があると考えられる。
- 事前のアンケートについて、アンケートの内容は前向きなめあてが立てられるよう、マイナスをイメージしないものをアンケート項目にした。アンケートから自分たちの課題をつかみ、話し合いを通して解決方法を見つけ、具体的な個人目標を意思決定することができていた。夏休みでの成長を夢や目標と関連付ける教師の声かけでさらにプラスの方向で考えることができていた。
- 資料提示、本時の学習を今後どのように生かしていくかについて。資料は、今できていることをさらによくしていくことを意識して作成した。子どもたちが自分自身でめあてを立て、それを意識しながら過ごすことに意義があり、この夏のことを思い返しながら今後の生活に生かしてほしい。夏休み中に毎日めあてを立て、振り返りをするためにはこれまでの積み重ねや家庭の理解と協力が必要。また、夏休み中に課題に取り組めるかどうかは、学校を離れて生活している児童を信じて任せることも大切。



6年 組

学級活動 (2) 「食習慣を見直そう」

ねらい 「食」というテーマをSDGsの視点で考えることで、自己の食習慣を見直し、自己の食習慣をよりよいものしていくために話し合っって自分のめあてをもち、実践できるようにする。

協議会より 指導講評 特別活動研究会 川崎市立住吉小学校 総括教諭 青木 洋俊

～話題及び指導講評～

- SDGsの視点について、食という広いテーマについてSDGsの視点で考えるために「食品ロス」「健康」「コミュニケーション」の3つの柱で考えられるようにした。総合の学習でSDGsについて児童の理解を深めることができているので、とてもスムーズに食を3つの柱で考えることができていた。また、担任と栄養教諭が柱ごとにわかりやすい資料を準備していたことが大変素晴らしかった。3つの柱に分けたことは、話し合いを整理しキャリアの視点につなげるためにもとても有意義だった。
- 栄養教諭の出どころについて、大豆ミートを例に出して、大豆ミートひとつでもSDGsの17の目標の達成に数多くの項目で関連していることが知れる内容だった。栄養教諭の解説により、児童の学習内容への興味が深まり、意思決定する際の助けとなった。また、栄養教諭の出どころとして、説明するだけでなく児童の質問を受けることも効果的だという意見も出た。
- 資料について、今回使用した資料は、どれも児童の身近な人の声を資料にしているので大変素晴らしかった。ただ、準備に時間がかかるのですべての学校で同じことをするのは難しい。なので学校で実践をする際は、教育委員会から汎用的に使える資料や指導案を提供しているのでそれを活用してもよい。日頃から学級活動を大切にすることのわかる話し合いがよかった。また、児童一人一人が具体的なめあてを立てることができていた。

